

地誌・人文地理学を担当して

法政大学 兼任講師 柴田 健

1999年度から「教職・地誌」を通年科目で2004年度まで6年間、2005年度から「地誌」「人文地理学」を半期科目で2011年度まで7年間担当させていただいた。前任者に倣い現場教員ということで担当させていただいたと考えている。

中学社会科／高校地歴・公民科において、地理分野は教員の多くが不得手な分野である。かつての「物産地理＝（原油生産国の1位～3位を覚えよなど）」のイメージが強いし、地理独自の指導内容を把握しにくく、地形・気候・水に象徴される自然地理は一部理科教育に近い。現在の地理教育は、緯度経度・時差、地域調査、人口移動、環境保護など、他の社会科科目が扱いつらい分野が多い。地球の現状を把握するには最適な科目だと思われるが、そのことが学ぶ側、教える側には辛いものとなる。

1. 地理の基礎・基本とは何か

地理とは何を学ぶことを求められている分野か。この点での世間と地理教員の認識のズレは大きい。

「国内・国外の地名を多く知ること」、「地図の判読」が共通して求められているようである。前者の象徴は47都道府県名と県庁所在地であり、主要国名と首都名であろう。後者については、かつて小学校で日本の山脈・川・国鉄の幹線名などを遊びとして確認しようといった時代もあった。

中学校・高校・大学（教職課程など）それぞれの段階での基礎基本は何か。算数の四則計算、国語の文字習得のような明確な基礎はあるのだろうか。社会科教育の中で地理だけが基礎に振り回されている感が否めない。「地理学」そのものの曖昧さが起因していることも考えられる。歴史教育の基礎という議論はあまり耳にしない。

中学校での基本と考えられている「7地方区分：北海道・東北・関東・中部・近畿・中国・九州（沖縄）」、近隣諸国（韓国・中国・ロシア）・アメリカ・インド・EUの地誌学習などを地理の基礎と位置づけることから議論を始めるのが適当だと思われる。

2. 中学校の「地理」はどこまでか

《教育出版『地理／地域に学ぶ』》から

第1編 地球、世界そして日本

1. 地球を探検する
2. 世界の構成は
3. 日本の構成は

第2編 いろいろな地域を調べよう

1. 身近な地域を調べよう（東京都八王子市）
2. 都道府県を調べよう
3. 世界の国々を調べよう

第3編 世界からみた日本のすがた

1. 世界と日本の自然
2. 世界と日本の人口
3. 世界と日本の産業
4. 世界と日本の暮らしと文化
5. 結びつく世界と日本
6. 総合的にみた日本

資料編

①地理の基礎……

・自宅～学校の認知地図を作成できる

1週間程度通学した後、路上観察の一環としてA4版程度の紙で書かせる。教科担当が当該生徒の自宅に行き着けると判断できる密度まで到達させたい。

地域区分は日本は「7地方区分」で各府県の位置を確認したい。自分の属する地方の県庁所在地は確認させたい。

・地球の大きさと立体感を理解できる

教室に地球儀（携帯用のビーチボール型が扱いやすい）を持ち込むことが望ましい。緯度経度の導き出し方と緯度0° 経度0° の位置の確認をしたい。正距方位図法（図の中心から任意の点を結ぶと正しい方位と距離が示せる、航空図に使用）とメルカトル図法（緯線・経線が直線で、航海図に使用）の違いを学び、東西南北の実際を理解させたい。時差については日付変更線などに気づかせる程度とし、数値を求める作業は高校に任せる。

②地域を知る……

勤務校周辺の国土地理院1/25,000の地形図をB4程度の用紙に印刷し、主な河川、鉄道、幹線道路などを確認するとともに、生徒の自宅から学校までのルートを着色させたい。

【横浜市港北区の場合】

新横浜地区を軸として東海道新幹線、JR横浜線、東急東横線、京急本線、鶴見川、横浜港など神奈川東北部の位置を知ることが大切である。小学校3～4年生で使用する教育委員会作成の地域学習の副読本の範囲をおさらいする。地域がかつて養蚕地帯だった、埋立地だったことなどを知らない生徒も多い。

③環境学習……

温暖化・砂漠化・酸性雨などより、地元自治体での課題になっている事例を紹介しながら一般化したい。11月に報道された東京・小

金井市の「ゴミ処理委託費」無駄論争などは今日的な素材であろう。

自然災害に関わる事例としては、「東日本大震災」、「阪神淡路大震災」などを扱いたい。前者の巨大災害によって、地理で扱う内容が大幅に変わったと思われる。

環境問題の歴史は足尾銅山鉍毒事件と水俣病が近代日本の典型事例であろう。両者を軸として加害企業・地域住民・行政3者の関係を学ばせたい。

④自然学習……

大地形は「プレートテクトニクス」の用語を使う程度で、小地形は河川の動きを扇状地～三角州の範囲で学ばせたい。気候は気温と降水の国内の地域差を扱いたい。気候変動は環境問題との関連で簡単に触れたい。

⑤地誌……

・日本地誌は7地方区分を軸として、47都道府県の中の典型事例を扱いたい。

【農業】新潟・北海道の米、自給率低下

【水産業】まぐろ・いわしなどの資源枯渇

【鉍工業】愛知の自動車・三重の電器産業

【多国籍化】愛知・群馬の日系ブラジル人、在日コリアン

【環境】地域、世界遺産（屋久島・小笠原諸島・平泉など）

【平和】沖縄・神奈川の米軍基地などをマトリックスを作成して組み立てる。

・外国地誌は

*アジア【韓国・北朝鮮・中国・ASEAN [タイ・マレーシア・ベトナム・フィリピン]・インド・バングラデシュ・イラク・サウジアラビア・イスラエル・トルコ】

*アフリカ【エジプト・ルワンダ・ナイジェリア・南アフリカ】

*ヨーロッパ【EU27ヶ国の中、イギリス・フランス・ドイツ・スペイン・ポーランド+

ロシア】

*南北アメリカ【アメリカ・カナダ・キューバ・ブラジル・ペルー・ボリビア】

*オセアニア【オーストラリア】

などの 30ヶ国程度の位置を把握し、主要な国の首都を確認させる。

3. 高校の「地理」はどこまでか

《清水書院『現代地理 A / 現代世界の動向や諸地域の課題をさぐる』から

第 1 編 現代世界の特色と地理的技能

第 1 章：球面上の世界と地域構成（地球儀・世界地図・領土）

第 2 章：結びつく現代世界（交通・通信・貿易）

第 3 章：多様さを増す人間行動と現代世界（消費・余暇・観光）

第 4 章：身近な地域の国際化と進展（地域調査）

第 2 編 地域性をふまえてとらえる現代世界の課題

第 1 章：世界の生活・文化の地理的考察（アメリカ・カナダ・オーストラリア・韓国・中国・ロシア）

第 2 章：地球的課題の地理的考察（環境・人口・食料・教育・平和）

①地理の基礎……

- ・地名、地誌は中学校との差別化が難しい。
- 7 地方区分、外国を 30ヶ国扱うという、中学校の目標に別項で付け加えたい。
- ・緯度経度の導き出し方は図示出来ることを目標としたい。地図図法は正距方位とメルカトル図法のみでよいが、前者を使いこなせるようにしたい。時差は日付変更線をこえる事例を理解できることが望ましい。

②地域を知る……

- ・自宅～学校の認知地図を作成できる。中学校と同様に、路上観察の一環として A4 版程度の紙で書かせてみる。鉄道・道路の交差などの表現に工夫をさせたい。
- ・中学校と同様に、勤務校周辺の 1/25,000 の地形図を B4 程度の用紙に印刷し、主な河川、鉄道、幹線道路などを確認するとともに、生徒の自宅から学校までのルートを着色させたい。

【川崎北部の場合】

多摩川、JR 南武線、小田急線、東急田園都市線、京王相模原線、東名高速道路、国道 246 号線（渋谷～厚木～沼津）、大学群（専修大、日本女子大、明治大、聖マリアンナ医大）隣接する多摩ニュータウンなど東京西南方面の郊外地域の特徴がつかめよう。

【法政大学多摩キャンパスの場合】

京王線、中央本線、横浜線、多摩ニュータウン、高尾山、津久井湖、相模湖、中央高速、圏央道、国道 16 号線、郊外型大学（多摩美大、拓殖大、杏林大、東京造形大）

③自然の扱い……

- ・民間教育団体の地理教育研究会では単独で扱わない流れがある。だが、東日本大震災など自然災害の社会に及ぼす影響などを扱う場合、プレートテクトニクスなどの大地形や小地形（扇状地から三角州まで）の基礎は必要であると思われる。ただし 2 単位の地理 A の場合は厳しい。
- ・気候についてはケッペンの気候区分は有効

だと考えられるが、Af・Aw・Amなどの区分を導き出す水準を求めることは難しい。区分結果を簡単にふれることで良いと思われる。

・水については、災害との関連で陸水・海水を簡単に扱いたい。

④日本地誌は……

・中学校の7地方区分で基礎は学んでいるとの前提で、居住府県と周辺都市圏、沖縄（沖縄戦と米軍基地／基地と産業振興）、北海道（地域格差／国内農林水産業の拠点／領土と外交）を重点的に扱いたい。

⑤外国地誌は……

中学校の30ヶ国をふまえて、以下の地域に絞り込みたい。

・アジアは、韓国【在日コリアンとの関連づけ／外国人登録の推移／朝鮮通信使と福沢諭吉の脱亜論などの歴史認識をどこまで扱うか】、中国【多様な民族／改革開放政策／社会主義市場経済／地域格差】、インド【Bricsと

どうつなげるか】ASEAN【マレーシアなどの取り出し】、西アジア【イスラム教とアラブ地域】などを扱う。

・ヨーロッパ【EU25ヶ国：英独仏と東欧の格差の比較】、USA【地形・移民国家・農業・工業・国際関係】、南アメリカ【ブラジル・ボリビア・ペルー】、アフリカ【エジプト・ルワンダ・南アフリカ】、オセアニア【オーストラリア】などに特化したい。

⑥災害【東日本大震災・阪神淡路大震災・奥尻島津波・中越地震】

環境【足尾鉍毒～水俣病で環境を語る、典型事例の扱い方】などについても扱うが、テーマは当該年度で絞り込みたい。

4. 大学での基本とは【教職課程の講義例より】

◇ 2000年度

《地誌》通年・講義内容

【前期】	<ul style="list-style-type: none"> ①現代世界の構成 ②地理の基礎を学ぶ ③地形図と地域調査 ④災害と地域 I ⑤災害と地域 II ⑥日本農業と地域 ⑦日本と朝鮮半島 ⑧沖縄に学ぶ I ⑨沖縄に学ぶ II ⑩沖縄に学ぶ III ⑪地域からの断絶 	<p>講義の方針、地域区分の変遷、正距方位とメルカトル時差、地名の理解</p> <p>多摩地域と箱根火山</p> <p>阪神淡路大震災5年</p> <p>奥尻島と雲仙普賢岳</p> <p>米作と棚田保全</p> <p>在日コリアン・川崎市と山形県戸沢村</p> <p>亜熱帯と島嶼</p> <p>沖縄史と沖縄戦</p> <p>米軍基地と戦後沖縄</p> <p>ハンセン病と長島愛生園</p>
-------------	--	---

【後期】	<ul style="list-style-type: none"> ①環境問題 I ②環境問題 II ③環境問題 III ④環境問題 IV ⑤アジアの環境産業 I ⑥アジアの環境産業 II ⑦アジアの環境産業 III ⑧USAの産業社会 I ⑨USAの産業社会 II ⑩ブラジルと日本 ⑪世界の中の日本 	<p>河川はだれのものか・吉野川第十堰</p> <p>ダムは必要か・徳山と細川内</p> <p>ゴミと産廃・豊島</p> <p>「みなまた」は終わらない</p> <p>アジアを食べる日本のネコ</p> <p>マレー半島と日本</p> <p>中央アジア・ウズベキスタンの今</p> <p>世界の穀倉と穀物メジャー</p> <p>アメリカは民主主義の見本</p> <p>アマゾンと日系移民</p> <p>「脱亜入欧」と情報公開</p>
-------------	---	---

◇ 《地誌》 2011年度

①現代世界と地理	講義の方針、地域区分と地名	(使用映像)
②環境問題 I	東日本大震災	東日本震災映像
③環境問題 I-2	水俣病 50年	水俣病その 20年
④アジアと日本 I-1	おいしいコーヒーの経済論	おいしいコーヒーの真実
⑤アジアと日本 I-2	バングラデシュの暮らしと NGO	自作 VTR
⑥アジアと日本 I-3	イスラム世界を知る	もっと知りたい中東
⑦中国 豊かさへの模索	開発と格差	激流中国・上海から先生がやってきた
⑧中南米の日系移民	ブラジル移民と外国人登録	アマゾンの森を耕す
⑨拡大 EU	27ヶ国の EU	大欧州誕生・国境なき巨大市場
⑩アメリカの生活と文化	「貧困大陸アメリカ II」を読む	I have a dream～キング牧師のアメリカ市民革命～
⑪沖縄・歴史と現代 I	沖縄入門～沖縄戦	軍隊がいた島・慶良間の証言

◇ 《人文地理学》 2011年度

①現代世界と地理 II	講義の方針、沖縄八重山・教科書採択問題
②現代世界と地理 II	時差、正距方位とメルカトル
③災害と人間	東日本大震災 その 2 巨大津波・その時ひとはどう動いたか
④地域からの断絶	ハンセン病と長島愛生園 人間回復の橋、心の架け橋となれ
⑤環境問題 II-1	世界遺産（屋久島と小笠原・平泉） 伝説の深き森を守れ・屋久島
⑥環境問題 II-2	ゴミと産廃・香川豊島 ゴミ 50万トンに挑んだやせ蛙
⑦沖縄と現代	米軍基地と戦後沖縄 狙われた海・大浦湾
⑧アジアと日本 II-1	韓国と在日コリアン わいわいごちゃごちゃ・多文化共生の街
⑨アジアと日本 II-2	脱亜入欧・高嶋教科書訴訟 アジアとの友好のために
⑩アジアと日本 II-3	ITと多文化のインド インドの衝撃・貧困層を狙え
⑪南米の今	ペルー・ボリビアを歩く 自作 VTR「南米の旅」
⑫森は海の恋人	漁師とともに山に木を植える NHK『プロフェッショナル』

法政大学での2年目の内容と最後である今年度の内容を対比した。中学1年生以来、初めて地理を学ぶ学生たちに何を伝えるか。具体的にイメージしてみた。環境、アジア、沖縄がキーワードであろうか。

高校での授業内容をふまえての事例だが、果たして教壇に立つ可能性がある学生に伝えるべき内容になっているだろうか。今年は「東日本大震災」を扱うために組み替えている。自然災害こそは「自然と人間」を主要な課題とする地理の出番であろう。昨夏の地理教育研究会大会でも分科会の1つをこれにあてて、成果を持ち寄っている。

研究者の方が担当する場合、「人文地理学」

「地誌学」を体系的に扱う傾向が強い。これは正しい方法だが、中学校・高校の教壇に立つ人たちにはどうであろうか。結局1回もこの構成にはしなかった。

社会科学を学ぶ学生であっても、地理で扱う事例への関心は乏しい。公害の典型である水俣病を例にとると、「水俣病—チッソ—有機水銀」といった暗記事項として覚えているだけで、水俣病の複雑な病像、チッソの前身である日本窒素が朝鮮侵略の尖兵であったこと、胎児性患者さんの半世紀の歩みなどを学ぶ機会は少ない。

地理独自の課題である緯度経度の概念、地球の立体感を学ぶ「正距方位とメルカトル図法」の比較、集大成である「時差」などにつ

いて、短時間で理解を得るのは難しい。各分野の特徴的なテーマを扱いたい。高校教科書、地図帳を手元においての学習が望ましい。

主要な教材にしている『沖縄の歴史と現代』では次のような観点で内容を整理している。

「心に刻む沖縄の旅」

- ア) 亜熱帯の自然……鍾乳洞（壕、ガマ）・サンゴ礁・ジュゴン・やんばる
- イ) 島嶼性……70の島嶼、有人島は40・東西1,000km、南北500km・北限は北緯27
沖縄・宮古・八重山
- ウ) 琉球文化…琉球王国（17世紀までは独立国家）・三線・舞踊
- エ) 沖縄戦 …5月末の首里撤退前に日本軍の(2/3)は戦死
首里撤退後に 住民の(2/3)が犠牲
住民虐殺・集団死・糸数壕・轟壕・強制連行
- オ) 米軍基地……日米安保条約・(国土)の0.6%に(米軍専用基地)の74%
嘉手納基地の強化・普天間基地移転(戦後初の基地建設)・海兵隊・地位協定
⇒基地撤去後の町づくりのイメージは[北谷・ハンビータウン]

5. 現代世界をどう切り取るか

①かつて所属する地理教育研究会が提唱し、授業構成上も扱いやすかった「資本主義国・社会主義国・発展途上国」の3区分は1991年のソビエト連邦崩壊とともに現実性がなくなった。それに変わる地域区分は可能だろうか。地図帳は現在、GDP区分などを使用しているが、貧富の差で国家区分をする現状は科学的ではないだろう。激変する世界情勢を踏まえつつ、3区分に匹敵する地域区分を見いだしたい。

②中学校、高校、大学教職課程での内容重複は避けがたい。事例の入替などで関心を繋ぎ止めたい。高校段階での地理学習軽視に対しては警鐘を挙げ続けるしかないが、グローバル化する世界を把握する力が弱まることを恐れている。その点で、大学入試科目から地理が減少し続けていることの影響は大きい。かつて地教研として、神奈川県のあるK大学に入試科目として地理の復活要請をして位置づいた事例がある。こうした努力の積み重ねは必要

だと思われる。関東有数の文学部「地理学科」がある法政大学には影響力拡大に向けてがんばっていただきたい。

また、学校管理体制強化、消費者としての保護者のニーズといった方向からの学習指導要領＝シラバスでの授業のしぼりと教科担当者の問題意識との差をどう埋めていくかが今後の課題である。